

PM学会四国支部 2025年10月度研究会記録

日 時：2025年10月30日(木) 13:00～15:15

開催方法：オンライン開催 (Teams 配信)

主 催：プロジェクトマネジメント学会四国支部

後 援：特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会

出席者：23名

講 師 ①：大和田 昭邦氏 (株式会社 DynaxT)

講 演 ①：「プロジェクトマネジメントの心得」

内 容：プロジェクトマネジメントの基本的な心得は、

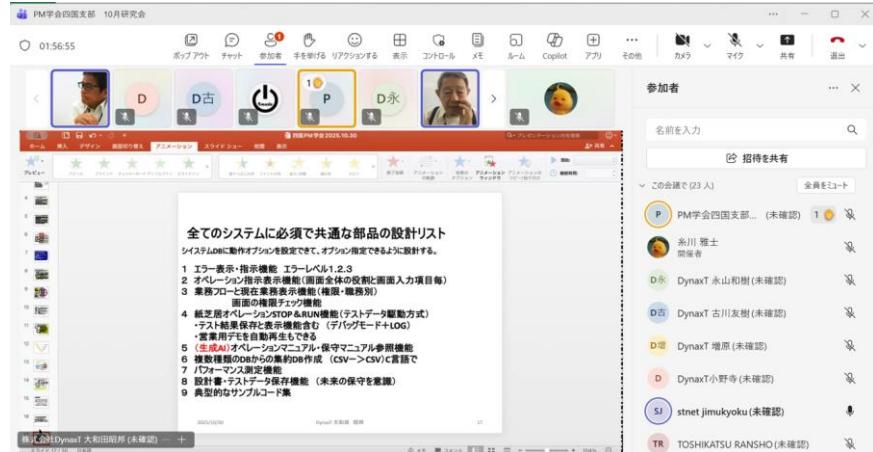
- ・目的とゴールの明確化
- ・密なコミュニケーション
- ・リスク管理

この3つに集約されると言われています。

今回の講演では、特に「リスク管理」に焦点を当て、以下のような観点からプロジェクト成功のための重要なポイントが紹介されました。

- ・設計手法を選定する際には、その手法を活用できる人材が社内にどれだけいるか、将来的に（10年後など）保守を担える要員が確保できるかといった点を慎重に検討する必要がある。
- ・また、ユーザー視点に立った非機能要件の洗い出しも、プロジェクトの品質や運用性を左右する重要な要素である。

これらの視点を踏まえた研究事例が紹介され、プロジェクト成功に向けた実践的な知見が共有されました。



講 師 ②：古川 友樹氏、永山 和樹氏（株式会社 DynaxT）

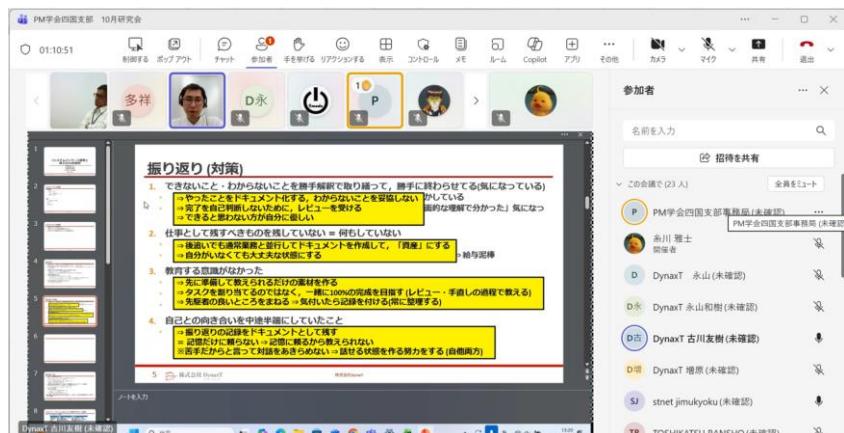
講 演 ②：「ITシステムパッケージ開発と納入のPM失敗例」

内 容：ITシステムパッケージとは、特定の業務に対応できるよう、あらかじめ汎用的な機能が組み込まれて製品化されたソフトウェアです。標準的な機能を備えているため、比較的低コストかつ短期間で導入できるというメリットがありますが、一方で、顧客独自の業務に合わせたカスタマイズには限界がある場合もあり、導入時にはその点を十分に考慮する必要があります。

今回は、パッケージ開発において、設計・計画の精度がプロジェクト成功の鍵となることについて、失敗事例や反省点を交えた研究事例をご紹介いただきました。

講演後の質疑応答では、「今回のプロジェクトの失敗は、PMと新入社員数名だけというチーム構成に問題があったのではないか」との質問がありました。

これに対し、古川 友樹氏および永山 和樹氏からは、「問題はチーム構成そのものではなく、新入社員を活用してプロジェクトを進めるための計画や準備が不十分だったことにある」とのご回答がありました。



講 師 ③：小野寺 淳一氏（株式会社 DynaxT）

講 演 ③：「再構築案件の失敗事例」

内 容：再構築案件とは、老朽化した既存システムを最新技術を用いてゼロから作り直すプロジェクトを指します。単なるシステムの置き換えではなく、現行システムの課題を洗い出し、業務プロセス全体を見直したうえで、新しい技術を活用したシステムを構築する点が特徴です。今回は、そうした再構築（マイグレーション）案件における失敗事例についてご紹介いただきました。

講演後の質疑応答では、「再構築案件を受託する際のポイント」に関する質問があり、小野寺 淳一氏からは、「既存システムと同じ仕様での再構築を求められる部分も多いが、その中には開発側が正確に理解できていない、あいまいな部分が含まれている場合がある。そうしたケースでは、準委任契約とし、事前に調査フェーズを設けることが重要である」と回答をいただきました。



以上